東芝 CMOS デジタル集積回路　シリコン　モノリシック

TC94A58FG

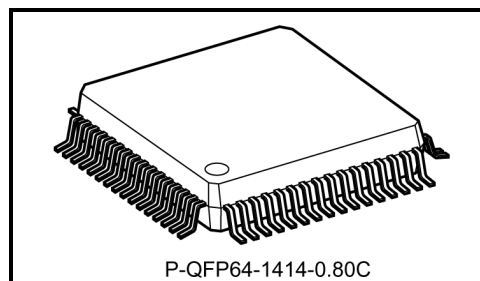
コントローラ内蔵 1 チップ CD プロセッサ

質量: 1.20 g (標準)

TC94A58FG は、4 ビットマイクロコントローラを内蔵したデジタルサーボ対応の 1 チップ CD プロセッサです。

コントローラは、LCD ドライバ、4 チャネル 6 ビット AD コンバータ、1 系統･2 チャネルの 2 線式･3 線式および UART 対応シリアルインタフェース、ブザー、20 ビット汎用カウンタ機能、割り込み機能、8 ビットタイマカウンタを備えています。また、CPU は、4 種類 (16.9344 MHz/75 kHz/32.768 kHz の水晶発振器、外部クロック入力) の動作クロックが選択でき、CD プロセッサとのインタフェースが容易です。

CD プロセッサは、CD システムにおける同期分離保護と内挿、EFM 復調、エラー訂正と補正、サーボ用デジタルイコライザおよびサーボコントロール回路を内蔵しています。さらに、1 ビット DA コンバータを内蔵し、デジタルサーボ用ヘッドアンプ TA2157F/FG/FN/FNG との組み合わせで、完全無調整でかつ非常にシンプルに CD プレーヤシステムを構成できます。

このため、カー用･ラジオカセット用の CD システムに適しています。

特　長

- CMOS 構造 LCD ドライバ･4 ビットマイクロコントローラ内蔵の 1 チップ CD プロセッサ
- 動作電源電圧　CD 動作時: V_{DD} = 3.0~3.6 V (標準 3.3 V)
CD オフ時: V_{DD} = 1.8~3.6 V (CPU のみ動作時)
- 消費電流　CD 動作時: I_{DD} = 30 mA (標準)
CD オフ時: I_{DD} = 1.5 mA (CD スタンバイモード時、水晶 16.9344 MHz 動作、CPU 動作)
CD オフ時: I_{DD} = 50 μA (CD スタンバイモード時、75 kHz 水晶発振動作、CPU 動作)
- 動作温度範囲　Ta = −40~85°C
- 外囲器　QFP (0.8 mm ピッチ、2.8 mm 厚)
- E^2PROM　TC94AE29FAG

4 ビットマイクロコントローラ部

- プログラムメモリ（ROM）: 16 ビット × 16k ステップ
- データメモリ（RAM）: 4 ビット × 512 ワード
- 命令実行時間: 1.42 μs, 40 μs, 91.6 μs, Tosc × 3 (すべて一語命令)
- 水晶発振周波数: 16.9344 MHz, 75 kHz, 32.768 kHz, 外部クロック入力
- スタックレベル: 16 レベル
- AD コンバータ: 6 ビット、4 チャネル
- LCD ドライバ: 1/4 デューティ･1/2 バイアス方式または 1/3 バイアス方式、最大 64 セグメント
- I/O ポート: CMOS I/O ポート: 最大 26 本,
  Nch オープンドレイン I/O ポート: 最大 3 本（5.5 V 耐圧）
- タイマカウンタ: 8 ビット（タイマモード、パルス幅検出・測定機能）
- 汎用カウンタ: 20 ビット，入力アンプ内蔵, 0.1~20 MHz, Vin = 0.2 Vpp 最小
- シリアルインタフェース: 1 系統･2 チャネルの 3 線式と 2 線式および UART に対応
- ブザー: 0.75, 1, 1.5, 3 kHz (4 種類)、連続･単発･10 Hz 断続･10 Hz 断続 1 Hz 間隔の 4 モード
- 割り込み: 外部 1、内部 3 (CD サブシンク同期、シリアルインタフェース、8 ビットタイマ)
- バックアップモード: 4 種類のバックアップモード
  CD スタンバイ（CD プロセッサ停止)、クロックストップ（発振停止)、
  ハードウエイト（水晶発振のみ動作)、ソフトウエイト（CPU 間欠動作)
- リセット機能: パワーオンリセット回路、電源検出回路内蔵（検出電圧 = 1.5 V 標準)
- CD プロセッサ端子切り替え機能
  : プログラムにより 1 端子ごとに CD プロセッサ専用端子に切り替え可能。
  DSP 出力: BCK,LRCK,AOUT,DOUT,IPF,SBOK,CLCK,DATA,SFSY 端子。
  DAC 入力: DACin, BCKin, LRCKin 端子。
  (注) BCKin と LRCKin は一括切り替え。DAC 入力設定は、CD コマンドで行う。

CD プロセッサ部

- 同期パターン検出、同期信号保護および内挿動作が確実です。
- EFM 復調回路、サブコード復調回路を内蔵しています。
- CIRC 訂正理論式を用い、高訂正能力を持っています。C1 訂正: 2 重、C2 訂正: 4 重
- ジッタ吸収能力は±6 フレームです。
- 16 KB RAM を内蔵しています。
- デジタルアウト回路を内蔵しています。
- L/R 独立デジタルアッテネート回路を内蔵しています。
- オーディオ出力はバイリンガルに対応しています。
- オーディオ出力は $32f_S$, $48f_S$, $64f_S$ 切り替え可能です。
- サブコード Q データはリードタイミングフリーです。また、オーディオデータとの同期出力も可能です。
- データスライス回路、アナログ PLL (無調整 VCO 採用) 回路を内蔵しています。
- フォーカスサーボ、トラッキングサーボにおけるループゲイン、オフセット、バランスの自動調整が可能です。
- RF ゲイン自動調整回路を内蔵しています。
- 位相補償用デジタルイコライザを内蔵しています。
- デジタルイコライザ用係数 RAM を内蔵しており、各種ピックアップへの対応が可能です。
- フォーカス、トラッキングサーボコントロール回路を内蔵しています。
- サーチコントロールは、あらゆるモードに対応し高速かつ安定したサーチを実現できます。
- レンズキック、フィードキックは速度制御方式を採用しています。
- ディスクモータの CLV サーボ用 AFC 回路および APC 回路を内蔵しています。
- ディフェクト、ショック対策回路を内蔵しています。
- 8 倍オーバサンプリング･デジタルフィルタと 1 ビット DA コンバータを内蔵しています。
- 1 ビット DA コンバータ用アナログフィルタを内蔵しています。
- 0 データ検出出力回路を内蔵しています。
- 2 倍速動作に対応しています。

注: CD プロセッサのサブコード Q データおよびオーディオデータの出力などはコントローラ専用端子と兼用しています。プログラムにより 1 端子ごとに機能端子の切り替えが可能です。

端子接続図

注: BRK~BRK16 は、バックアップ状態の解除がポート単位で設定可能。

注: 56 ピンの TEST 端子は、リセット中プルダウンされ、テストモード入力となります。このため、リセット中は “L” レベルを入力または、オープン状態に設定してください。

ブロック図

SEL
DMO
FMO
TEBC
RFGC
VREF
TRO
FOO
TEZI
TEI
SBAD
FEI
RFRP
RFZI
AVDD
AVSS
Clock gene.
CD clock
X'tal OSC
PWM
DA
Data slicer
RFI
SLCO
XI
XO
ZDET
SERVO control
AD
PLL TMAX
TMAX
PDO
DVDD
RO
DVSS
LO
DVR
LPF
1 bit DAC
ROM
RAM
Digital equalizer
Automatic adjustment circuit
CLV servo
Synchronous guarantee EFM decode
VCO
VCOF
LPFO
LPFN
Sub code decoder
CVDD
CVSS
Audio out
Digital out
16 k SRAM
Correction circuit
Address
DACin, BCKin, LRCKin
CD Reset
MPX
CPU clock
Micon interface
Reset
SBSY
BCK, LRCK, AOUT, DOUT
IPF, SBOK, CLCK, DATA, SFSY
DACin
CR OSC
X'tal OSC
Port8
P8-0/MX1/SYSCK (BRK1)
P8-1/MXO/DACin (BRK2)
Data Reg (16 bit)
Mask ROM (16 × 16384 Step)
G-Reg.
R/W Buf.
RAM (4 × 512 word)
ALU
Timer
Interrupt cont.
INTR
F/F
Serial interface (SIO)
Program Counter
Instruction Decoder
RESET
Power on Reset
Stack Reg. (16Level)
Port7
MVDD
MVSS
P7-0/SCK2/RX2 (BRK14)
P7-1/SDIO2/TX2 (BRK15)
P7-2/INTR/SI2 (BRK16)
Bias
BCKin, LRCKin
BCK, LRCK, AOUT, DOUT, IPF, SBOK,
CLCK, DATA, SFSY, SBSY
AD conv.
20 bit counter
BUZR
LCD Driver/IO Port2, 3, 4, 5, 6
Port1
SIO
P2-0/COM1
P2-1/COM2
P2-2/COM3
P2-3/COM4
TEST/P3-0/S1
P3-1/S2
P5-0/S9
P5-1/S10/BCK (BRK3)
P5-2/S11/LRCK (BRK4)
P5-3/S12/AOUT (BRK5)
P6-0/S13/ADin1/DOUT/BCKin (BRK6)
P6-1/S14/ADin2/IPF/LRCKin (BRK7)
P6-2/S15/ADin3/SBOK (BRK8)
P6-3/S16/ADin4/CLCK (BRK9)
P1-0/SCK1/RX1/CTin/DATA (BRK10)
P1-1/SDIO1/TX1/SFSY (BRK11)
P1-2/SI1/SBSY (BRK12)
P1-3/BUZR (BRK13)

端子説明

端子 番号	記　号	端　子　名	機　能 ・ 動　作　説　明	備　　考
49	$\overline{\text{RESET}}$	リセット入力	デバイスのシステムリセット信号入力端子です。 $\overline{\text{RESET}}$ が “L” レベルの間リセットがかかり、“H” レベルになると 16.9344 MHz 水晶発振器 (XI, XO) が動作し、この水晶発振クロックを計算し、約 50 ms のスタンバイ時間経過後にコントローラのプログラムは 0 番地からスタートします。このとき、CD 部はスタンバイ状態となります。 通常は MV_{DD} に 0 V → 1.8 V 以上の電圧が供給されるとシステムリセットがかかりますので (パワーオンリセット)、この端子は “H” レベルに固定して使用します。	MV_{DD} MV_{SS}
50 51	P8-0 /MXI/SYSCK (BRK1) P8-1 /MXO /DACin (BRK2)	I/O ポート 8-0 /水晶発振器 /CPU クロック入力 I/O ポート 8-1 /水晶発振器 /1 ビット DAC データ入力	2 ビット CMOS I/O ポートです。 1 ビットごとに入力／出力の設定ができます。I/O ポートの入力を設定したとき、1 端子ごとに入力をプルアップまたはプルダウン状態に設定することができます。さらに、クロックストップモードおよびウエイトモードのバックアップ解除許可に設定すると、その入力の変化でバックアップ解除を行うことができます。 これらの端子は、プログラムにより 75 kHz または 32.768 kHz 専用水晶発振器に、P8-0 端子は外部 CPU 動作クロック入力端子 (SYSCK) に、P8-1 端子は CD コマンド実行により 1 ビット DAC のデータ入力 (DACin) にそれぞれ使用することができます。 75 kHz または 32.768 kHz 専用水晶発振器や、CPU クロック入力は、コントローラ動作および周辺機器のクロックに使用されます。システムリセット後は、コントローラ動作および周辺機器のクロックは 16.9344 MHz 水晶発振器 (XI, XO) のクロックが選択され、プログラムにより、発振器設定･コントローラクロックへ切り替えます。発振器設定時、CKSTP 命令実行中は発振を停止します。 (注) バックアップ解除設定は､2 端子が同時に設定されます。 (注) 水晶発振子は起動特性の良いものを使用してください。 (注) システムリセット後は I/O ポートの入力状態に設定されます。 (注) コントローラクロックへの切り替えは、発振器設定し、動作が安定した後に行ってください。 (注) 外部 CPU クロック入力は､通常 32.768kHz クロックを使用してください。入力は、CMOS 入力となります。	MV_{DD} MV_{DD} 入力命令 R_{IN1} MV_{DD} MV_{SS} (I/O ポート設定時) R_{out2} MXO R_{fXT2} MV_{DD} MXI MV_{SS} (水晶発振器設定時)

<table>
<tr><th>端子
番号</th><th>記　号</th><th>端　子　名</th><th>機　能 ・ 動　作　説　明</th><th>備　　考</th></tr>
<tr><td>52
53
54
55</td><td>P2-0/COM1
P2-1/COM2
P2-2/COM3
P2-3/COM4</td><td>I/O ポート 2
/LCD コモン出力</td><td rowspan="4">24 ビット CMOS I/O ポートと 3 ビットの N チャネルオープンドレイン I/O ポートです。

1 ビットごとに入力/出力の設定ができます。I/O ポートの入力を設定したとき、P6-0~P6-3 端子は 1 端子ごとに入力をプルアップまたはプルダウン状態に設定することができます。また、P5-1 (BRK3)~P7-2 (BRK16) 端子は I/O ポートの入力状態およびバックアップ解除許可状態 (ポート単位で設定) に設定するとその入力の変化でクロックストップモードおよびウエイトモードのバックアップ状態を解除することができます。さらに、P7-0~P7-2 端子は、N チャネルオープンドレイン構造の I/O ポートで、5.5 V までの印加が可能です。

I/O ポート 2~6 は、プログラムにより LCD ドライバ出力端子に切り替えることができます。COM1~COM4 端子が LCD パネルへのコモン信号出力、S1~S16 端子がセグメント信号出力です。COM1~COM4 と S1~S16 とのマトリクスで最大 64 セグメントの表示ができます。

LCDoff ビットに “0” を設定すると、これら COM1~COM3 および S1~S4 の 8 本の端子はすべて LCD 出力端子となります。S5~S16 は 1 端子ごとに I/O ポートとセグメント出力に切り替えることができます。

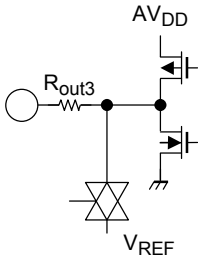
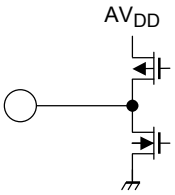
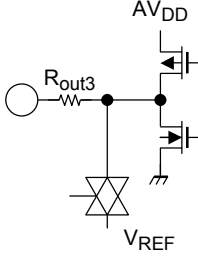
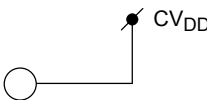
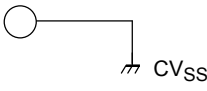
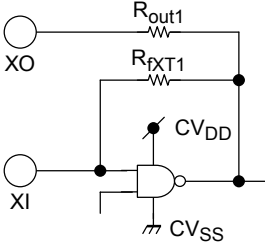
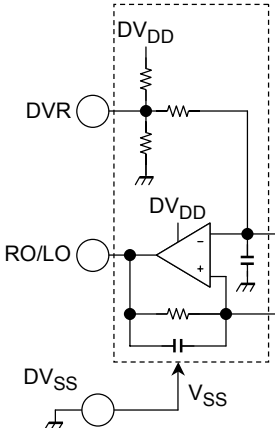
駆動方式は 1/4 デューティ･1/2 バイアス方式 (フレーム周波数 62.5 Hz) と 1/4 デューティ･1/3 バイアス方式 (フレーム周波数 125 Hz) の 2 種類が選択できます。

1/2 バイアス方式設定時は､コモン出力は MV_{DD}, $1/2MV_{DD}$, GND の三値レベルが、セグメント出力は MV_{DD}, GND の二値レベルが出力されます。また、1/3 バイアス方式設定時には、コモン出力およびセグメント出力は、MV_{DD}, $1/3MV_{DD}$, $2/3MV_{DD}$, GND の四値レベルで出力されます。

クロックストップ実行解除後は非選択波形 (バイアス電圧) が出力され、DISP OFF ビットに “0” をセット後コモン信号が出力されます。

TEST/P3-0/S1 端子は、システムリセット中 ($\overline{\text{RESET}}$ ＝“L”) はプルダウンされ、テストモード入力となります。このため、リセット中、この端子はオープンまたは “L” レベルを入力してください。

P5-1~P6-3, P1-0~P1-2 端子は､1 端子ごとに CD プロセッサ専用端子に切り替えることができます。CD プロセッサ機能は次のとおりです。

(次ページにつづく)</td><td>LCD 電圧
MV_{DD}
MV_{DD}
入力命令</td></tr>
<tr><td>56</td><td>TEST
/P3-0/S1</td><td>テスト入力
/I/O ポート 3-0
/LCD セグメント出力</td><td>LCD 電圧
MV_{DD}
MV_{DD}
入力命令
R_{IN2}
リセット信号
MV_{SS}</td></tr>
<tr><td>57
58
59</td><td>P3-1/S2
P3-2/S3
P3-3/S4</td><td>I/O ポート 3
/LCD セグメント出力</td><td rowspan="2">LCD 電圧
MV_{DD}
MV_{DD}
入力命令</td></tr>
<tr><td>60
61
62
63</td><td>P4-0/S5
P4-1/S6
P4-2/S7
P4-3/S8</td><td>I/O ポート 4
/LCD セグメント出力</td></tr>
</table>

端子番号	記　号	端　子　名	機　能　・　動　作　説　明	備　　考
64	P5-0/S9	I/O ポート 5-0 /LCD セグメント出力	● BCK:　ビットクロック出力端子です。32/48/64 f_S を CD コマンドにより選択可能です。 1 倍速時: 32 f_S = 1.4112 MHz ● LRCK:　LR チャネルクロック出力端子です。L チャネルの時 “L”、R チャネルのとき “H” が出力されます。出力極性は CD コマンドにより反転可能です。 1 倍速時: 44.1 kHz ● AOUT:　オーディオデータ出力端子です。MSB/LSB ファーストは CD コマンドにより選択可能です。 ● DOUT:　デジタルアウト出力端子です。2 倍速まで出力可能です。(CP-1201 準拠)	LCD 電圧 MV_{DD} MV_{DD} 入力命令
1 2 3	P5-1/S10 /BCK (BRK3) P5-2/S11 /LRCK (BRK4) P5-3/S12 /AOUT (BRK5)	I/O ポート 5 /LCD セグメント出力 /CD プロセッサ機能	● IPF:　補正フラグ出力端子です。AOUT 出力が C2 訂正出力において訂正不能シンボルのとき “H” が出力されます。 (別称 “C2PO”) ● SBOK:　サブコード Q データの CRCC 判定結果出力端子です。判定結果 OK のとき、 “H” が出力されます。 ● CLCK:　サブコード P~W データ読み取り用クロック入出力端子です。入出力極性は CD コマンドにより選択可能です。 ● DATA:　サブコード P~W データ出力端子です。 ● SFSY:　再生系フレームシンク信号出力端子です。	LCD 電圧 MV_{DD} MV_{DD} 入力命令 解除許可
4 5 6 7	P6-0/S13 /ADin1 /DOUT /BCKin (BRK6) P6-1/S14 /ADin2 /IPF /LRCKin (BRK7) P6-2/S15 /ADin3 /SBOK (BRK8) P6-3/S16 /ADin4 /CLCK (BRK9)	I/O ポート 6 /LCD セグメント出力 /CD プロセッサ機能	● SBSY:　サブコードブロックシンク出力端子です。サブコードシンクが検出されたとき、S1 の位置で “H” が出力されます。コントローラ側で CD 割込みが許可され、SBSY 信号の立ち下がりで割込みが発生し、プログラムは 2 番地にジャンプします。 ● BCKin:　1 ビット DAC のビットクロック入力端子です。 ● LRCKin:　1 ビット DAC の LR チャネルクロック入力端子です。 (注)　CD プロセッサ部の動作が不定状態で割込み許可をしないでください。 (注)　CD プロセッサ機能端子のうち、LRCKin/BCKin 端子は 2 端子同時設定となります。また、これらの端子を使用する際は、I/O ポートの入力に設定する必要があります。 P6-0~P6-3 端子は内蔵 6 ビット 4 チャネル AD コンバータアナログ入力を兼用しています。 内蔵の AD コンバータは、逐次比較方式で変換時間は 16.9344 MHz 水晶クロック使用時は 242 µs、75 kHz 水晶使用時は 7 命令サイクル (280 µs)です。プログラムにより必要な端子を 1 ビット単位で AD アナログ入力に設定できます。基準電圧には内部電源 (MV_{DD}) を使用します。 また、P6-0~P6-3 端子は I/O ポートの入力を設定したとき、1 端子ごとに入力をプルアップまたはプルダウン状態に設定することができます。 (次ページにつづく)	AD 入力 LCD 電圧 MV_{DD} MV_{DD} 入力命令 解除許可 R_{IN1} MV_{DD}　MV_{SS}

<table>
<tr><th>端子番号</th><th>記 号</th><th>端 子 名</th><th>機 能 ・ 動 作 説 明</th><th>備 考</th></tr>
<tr><td>10</td><td>P1-0/SCK1
/RX1
/CTin
/DATA
(BRK10)</td><td>I/O ポート 1-0
/シリアルクロック
入出力 1
/シリアル受信
データ 1
/カウンタクロック
入力
/CD プロセッサ機能</td><td rowspan="7">P1-0 端子は汎用カウンタ入力を兼用しています。入力周波数は、0.1~20 MHz で入力アンプを内蔵し、C 結合小振幅で動作します。汎用カウンタは 20 ビットのカウンタで 1、4、16、64 ms (75 kHz 水晶使用時) のゲート時間を選択でき、20 ビットのデータをそのままメモリに取り込むことができます。さらに、マニュアルモードを使用して命令によるゲートのオン/オフが可能です。

P1-0~P1-2 端子および P7-0~P7-2 端子はシリアルインタフェース回路 (SIO) の入力/出力端子を兼用しています。

SIO は 2 線式と 3 線式および UART に対応したシリアルインタフェースです。シリアルインタフェース回路は 1 系統で、CMOS 構造の I/O 入出力端子 (SCK1/RX1, SDIO1/TX1, SI1) と N チャネルオープンドレイン構造 (5.5 V までの印加が可能) の I/O 入出力端子 (SCK2/RX2, SDIO2/TX2, SI2) を選択することができます。シリアルインタフェース回路は、クロックエッジ選択、シリアルクロック入出力選択、クロック周波数選択機能などを備えているため、さまざまな LSI のコントロールおよびコントローラ間の通信が容易にできます。また、SIO の割り込みを許可すると、シリアル動作の終了後割り込みが発生し、プログラムは 4 番地にジャンプします。

P1-3 端子はブザー出力を兼用しています。

ブザー出力は、0.75, 1, 1.5, 3 kHz (75 kHz クロック使用時) の周波数 4 種類が選択でき、その周波数を連続･単発･10 Hz 断続･10 Hz 断続 1 Hz 間隔の 4 モードで出力させることができます。

P7-2 端子は外部割り込み入力を兼用しています。割り込み機能が許可され、この入力に 1.65~4.96 μs 以上 (75 kHz クロック使用時 13.3~40 μs) のパルスが入力されると割り込みが発生し、プログラムは 1 番地にジャンプします。入力割り込みは入力の論理および立ち上がり/立ち下がりエッジが選択できます。また、この入力は内部 8 ビットタイマカウンタのクロックゲート信号入力として使用でき、入力パルス幅の測定・検出が可能です。

(注) バックアップ解除設定は、ポート単位で許可･禁止が設定されます。

(注) システムリセット後は I/O ポートの入力状態に設定されます。

(注) 水晶 32.768 kHz または CR 発振器使用時、汎用カウンタはタイマとして使用します。</td><td rowspan="4">MV_{DD} MV_{SS} MV_{DD} 入力命令 解除許可
(I/O ポート設定時)

R_{fIN} MV_{DD} CTin MV_{SS}
(P1-0 汎用カウンタ入力時)</td></tr>
<tr><td>11</td><td>P1-1/SDIO1
/TX1
/SFSY
(BRK11)</td><td>I/O ポート 1-1
/シリアルデータ
入出力 1
/シリアル送信
データ 1
/CD プロセッサ機能</td></tr>
<tr><td>12</td><td>P1-2/SI1
/SBSY
(BRK12)</td><td>I/O ポート 1-2
/シリアルデータ
入力 1
/CD プロセッサ機能</td></tr>
<tr><td>13</td><td>P1-3/BUZR
(BRK13)</td><td>I/O ポート 1-3
/ブザー出力</td></tr>
<tr><td>14</td><td>P7-0/SCK2
/RX2
(BRK14)</td><td>I/O ポート 7-0
/シリアルクロック
入出力 2
/シリアル受信
データ 2</td><td rowspan="3">MV_{SS} MV_{DD} 入力命令 解除許可</td></tr>
<tr><td>15</td><td>P7-1/SDIO2
/TX2
(BRK15)</td><td>I/O ポート 7-1
/シリアルデータ
入出力 2
/シリアル送信
データ 2</td></tr>
<tr><td>16</td><td>P7-2/INTR
/SI2
(BRK16)</td><td>I/O ポート 7-1
/割り込み入力
/シリアルデータ
入力 2</td></tr>
</table>

端子番号	記　号	端　子　名	機　能　・　動　作　説　明	備　　考
8	MV_{DD}	コントローラ部電源供給端子	コントローラ部の電源供給端子です。 通常、V_{DD} = 3.0~3.6 V の電圧を供給します。CPU のみ動作時 (75 kHz/32.768 kHz 発振器使用時) には、V_{DD} = 1.8~3.6 V の範囲で動作可能です。 バックアップ状態 (CKSTP 命令実行時) では低消費電流 (10 μA 以下) となり、電源電圧を 1.0 V まで下げることができます。 この端子に 0 V → 1.8 V 以上の電圧がかかるとデバイスにはシステムリセットがかかり、プログラムは 0 番地からスタートします。(パワーオンリセット) (注) パワーオンリセット動作のために、デバイスの電源電圧の立ち上がり時間は 1~50 ms の間でご使用ください。 (注) バックアップ電流は、CV_{DD}/MV_{DD}/DV_{DD} のトータル電流値です。	MV_{DD}
9	MV_{SS}			MV_{SS}
17	PDO	CD プロセッサ制御入出力	EFM 信号と PLCK 信号との位相誤差信号を出力する端子です。 4 値出力: AV_{DD}/ハイインピーダンス/V_{REF}/AV_{SS}	AV_{DD} R_{out4} AV_{SS} V_{REF}
18	TMAX		TMAX 検出結果出力端子です。 所定周期より長い・・・"H" レベル (AV_{DD}) 所定周期より短い・・・"L" レベル (AV_{SS}) 所定周期内・・・ハイインピーダンス	AV_{DD} AV_{SS}
19	LPFN		PLL 系のローパスフィルタ用アンプの反転入力端子です。	AV_{DD} V_{REF} LPFN LPFO V_{REF} VCO VCOF
20	LPFO		PLL 系のローパスフィルタ用アンプの出力端子です。	
21	VCOF		VCO フィルタ端子です。	
22	AV_{SS}		アナログ系のグラウンド端子です。	—

端子番号	記　号	端　子　名	機　能　・　動　作　説　明	備　　考
23	SLCO		データスライスレベル生成用 DAC 出力端子です。	
24	RFI		RF 信号入力端子です。Zin1 は CD コマンドにより選択が可能です。	
25	AV_{DD}		アナログ系の電源供給端子です。通常、V_{DD} = 3.0~3.6 V の電圧を供給します。CD スタンバイ時にはこの電源はオフ状態にしてください。	—
26	V_{REF}		アナログ基準電源端子です。通常、AV_{DD} の 1/2 (V_{DD} = 3.3 V 時、V_{REF} = 1.65 V) の電圧を供給します。	—
27	RFZI		RFRP 信号ゼロクロス用入力端子です。	
28	RFRP	CD プロセッサ制御入出力	RF リップル信号入力端子です。	
29	FEI		フォーカスエラー信号入力端子です。	
30	SBAD		サブビーム加算信号入力端子です。	
31	TEI		トラッキングエラー入力端子です。トラッキングサーボオン時に取り込まれます。	
32	TEZI		トラッキングエラー･ゼロクロス入力端子です。	
33	FOO		フォーカスイコライザ出力端子です。	
34	TRO		トラッキングイコライザ出力端子です。	

端子番号	記　号	端　子　名	機　能 ・ 動　作　説　明	備　　考
35	RFGC	CD プロセッサ制御入出力	RF 振幅調整制御信号出力端子です。3 値の PWM 信号を出力します。(PWM キャリア ＝88.2 kHz)	AV_{DD} R_{out3} V_{REF}
36	TEBC		トラッキングバランス制御信号出力端子です。3 値の PWM 信号を出力します。(PWM キャリア ＝88.2 kHz)	
37	SEL		APC 回路オン/オフ信号出力端子です。レーザオン時、ハイインピーダンスとなります。	AV_{DD}
38	FMO		フィードイコライザ出力端子です。3 値の PWM 信号を出力します。(PWM キャリア ＝88.2 kHz)	AV_{DD} R_{out3} V_{REF}
39	DMO		ディスクイコライザ出力端子です。3 値の PWM 信号を出力します。(PWM キャリア ＝88.2 kHz)	
40	CV_{DD}	電源供給端子	CD プロセッサ部のロジックおよび、16.9344 MHz 専用水晶発振器の電源供給端子です。通常、MV_{DD}･MV_{SS} 端子と共通に接続します。CD スタンバイ時には低消費電流となります。	CV_{DD}
43	CV_{SS}			CV_{SS}
41	XO	水晶発振器端子	CD プロセッサ専用水晶発振器の入出力端子です。16.9344 MHz を接続します。このクロックは CD プロセッサおよびコントローラのシステムクロックとして使用します。システムリセット後、コントローラ側のシステムクロックにはこのクロックが供給され CPU が起動します。 プログラムにより水晶発振器を停止させることができます。通常、コントローラ用クロックに 75/32.768 kHz または外部 CPU クロック入力を選択したとき、CD プロセッサのオフ時にはプログラムによりこの発振器を停止させます。 (注) コントローラシステムクロックをコントローラ用クロックから CD 用水晶発振へ切り替える場合、CD 用水晶発振器が十分安定した状態で切り替えてください。	R_{out1} XO R_{fXT1} CV_{DD} XI CV_{SS}
42	XI			

端子番号	記　号	端　子　名	機　能　・　動　作　説　明	備　　考
44	DV_{DD}	オーディオ DAC 出力	DA コンバータ用電源端子です。CD スタンバイ時には低消費電流となります。	
45	RO		R チャネルデータ正転出力端子です。	
46	DV_{SS}		DA コンバータ用グラウンド端子です。	
47	LO		L チャネルデータ正転出力端子です。	
48	DVR		リファレンス電圧端子です。	

最大定格 (Ta = 25°C, $CV_{DD} = DV_{DD} = AV_{DD} = MV_{DD}$)

項　　目		記　号	定　格	単位
電　源　電　圧		V_{DD}	−0.3~4.0	V
入　力　電　圧 (注 1)	CV_{DD} 端子	V_{IN1}	-0.3~$CV_{DD} + 0.3$	V
	AV_{DD} 端子	V_{IN2}	-0.3~$AV_{DD} + 0.3$	
	DV_{DD} 端子	V_{IN3}	-0.3~$DV_{DD} + 0.3$	
	MV_{DD} 端子	V_{IN4}	-0.3~$MV_{DD} + 0.3$	
		V_{IN5}	−0.3~6.0	
許　容　損　失		P_D	500	mW
動　作　温　度		T_{opr}	−40~85	°C
保　存　温　度		T_{stg}	−65~150	°C

注 1: V_{IN1}; 41, 42 端子
V_{IN2}; 17~39 端子 (ただし、電源印加端子は除く)
V_{IN3}; 45, 47, 48 端子
V_{IN4}; 1~13, 49~64 端子 (ただし、電源印加端子は除く)
V_{IN5}; 14, 15, 16 端子

電気的特性
(特に指定がない場合, Ta = 25°C, CV_{DD} = MV_{DD} = DV_{DD} = AV_{DD} = 3.3 V, V_{REF} = 1.65 V)

項目	記号	測定回路	測定条件	最小	標準	最大	単位
動作電源電圧範囲	$V_{DD}1$	—	CPU, CD 動作時, ただし, MV_{DD} = CV_{DD} ≧ DV_{DD} = AV_{DD} (注 4)	3.0	~	3.6	V
	$V_{DD}2$		CPU 動作時 (CD スタンバイ, 16.9344 MHz 水晶発振器) (注 4)	3.0	~	3.6	
	$V_{DD}3$		CPU のみ動作時 (CD スタンバイ, 75 kHz/32.768 kHz 水晶使用時) (注 5)	1.8	~	3.6	
メモリ保持電圧範囲	MV_{HD}	—	水晶発振停止 (CKSTP 命令実行時) (注 4)	1.0	~	3.6	V
動作電源電流 (注 2)	$I_{DD}1$	—	CPU, CD 動作 (XI = 16.9344 MHz 水晶使用時)	—	30	50	mA
	$I_{DD}2$		CPU のみ動作 (XI = 16.9344 MHz 水晶使用時)	—	1.5	—	
	$I_{DD}3$		CPU 動作 (MXI = 75 kHz 水晶接続時)	—	50	100	μA
	$I_{DD}4$		スタンバイモード (水晶のみ発振, MXI = 75 kHz)	—	30	80	μA
メモリ保持電流	MI_{HD}	—	(CV_{DD}/MV_{DD}/AV_{DD}/DV_{DD}) 水晶発振停止 (CKSTP 命令実行時)	—	0.1	10	μA
発振周波数	f_{MXT}	—	(MXI-MXO) 水晶設定時 (注 3) (注 5)	30	~	100	kHz
	f_{XT}		(XI-XO) (注 4)	—	16.9344	—	MHz
水晶発振開始時間	t_{st}	—	(MXI-MXO) 水晶発振 f_{mxt} = 75 kHz/32.768 kHz	—	—	1.0	s
水晶発振器アンプ帰還抵抗	R_{fXT1}	—	(XI-XO)	0.5	1.0	2.0	MΩ
	R_{fXT2}		(MXI-MXO)	—	20	—	
水晶発振器出力抵抗	R_{out1}	—	(XO)	0.25	0.5	1.0	kΩ
	R_{out2}		(MXO)	50	100	200	
減電圧検出電圧	V_{DET}	—	(MV_{DD}) 減電圧回路許可時	1.4	1.5	1.6	V
減電圧検出回路動作電流	I_{DD}-V_D			—	100	—	μA

注 2: 動作電源電流は、CV_{DD}/MV_{DD}/DV_{DD}/AV_{DD} 電源端子のトータル電流値です。

注 3: 接続する水晶発振子に合わせて定数など設計･検討願います。

注 4: この項目は、CV_{DD} = MV_{DD} = DV_{DD} = AV_{DD} = 3.0~3.6 V、Ta = –40~85°C にて保証。

注 5: この項目は、CV_{DD} = MV_{DD} = DV_{DD} = AV_{DD} = 1.8~3.6 V、Ta = –30~75°C にて保証。

汎用カウンタ (CTin)

項目	記号	測定回路	測定条件	最小	標準	最大	単位
周波数範囲	f_{CT}	—	V_{IN} = 0.2 V_{P-P} (注 6)	0.1	—	20	MHz
入力振幅範囲	V_{CT}	—	(注 6)	0.2	—	2.0	V_{P-P}
動作電源電流	I_{DD-CT}	—	汎用カウンタ動作電流, f_{in} = 20 MHz	—	0.5	—	mA
入力アンプ帰還抵抗	R_{fIN}	—	(CTin)	200	350	1000	kΩ

注 6: この項目は、CV_{DD} = MV_{DD} = DV_{DD} = AV_{DD} = 3.0~3.6 V、Ta = –40~85°C にて保証。

LCD コモン出力/セグメント出力 (COM1~COM4, S1~S16)

項目		記号	測定回路	測定条件	最小	標準	最大	単位
出力電流	"H" レベル	I_{OH1}	—	V_{OH} = 2.9 V (LCD 出力時)	—	–300	—	μA
	"L" レベル	I_{OL1}		V_{OL} = 0.4 V (LCD 出力時)	—	450	—	
バイアス電圧	1/2 レベル	V_{BS2}	—	無負荷 (コモン出力, 1/2 バイアス方式設定時)	2.3	2.5	2.7	V
	1/3 レベル	V_{BS1}		無負荷 (LCD 出力, 1/3 バイアス方式設定時)	1.47	1.67	1.87	
	2/3 レベル	V_{BS3}			3.13	3.33	3.53	
LCD 動作電源電流		I_{DD}-LCD	—	LCD ドライバ動作電流	—	50	—	μA

I/O ポート (P1-0~P6-3, P8-0, P8-1, P7-0~P7-3)

項目		記号	測定回路	測定条件	最小	標準	最大	単位
出力電流	"H" レベル	I_{OH2}	—	V_{OH} = 2.9 V (P1-0~P1-3,P6-2,P6-3, P8-0, P8-1)	–1.0	–2.0	—	mA
		I_{OH3}		V_{OH} = 2.9 V (P2-0~P5-3, P6-0, P6-1)	–3.0	–6.0		
	"L" レベル	I_{OL2}		V_{OL} = 0.4 V (P1-0~P1-3,P6-2,P6-3, P8-0, P8-1)	1.0	2.0	—	
		I_{OL3}		V_{OL} = 0.4 V (P7-0~P7-3)	5	15	—	
		I_{OL4}		V_{OL} = 0.4 V (P2-2, P2-3, P3-0~P5-3, P6-0, P6-1)	3.0	6.0	—	
		I_{OL5}		V_{OL} = 0.4 V (P2-0, P2-1)	15	30	—	
入力リーク電流		I_{LI}	—	V_{IH} = 3.3 V, V_{IL} = 0 V (P1-0~P6-3, P8-0, P8-1)	—	—	±1.0	μA
				V_{IH} = 5.5 V, V_{IL} = 0 V (P7-0~P7-3)	—	—	±1.0	
入力電圧	"H" レベル	V_{IH}	—	—	V_{DD} × 0.8	~	MV_{DD}	V
	"L" レベル	V_{IL}		—	0	~	MV_{DD} × 0.2	
入力プルアップダウン抵抗		R_{IN1}	—	(P6-0~P6-3, P8-0, P8-1) プルダウン, プルアップ設定時	25	50	120	kΩ
		R_{IN2}		(P3-0) テスト入力プルダウン時	—	10	—	

AD コンバータ (ADin1~ADin4)

項目	記号	測定回路	測定条件	最小	標準	最大	単位
アナログ入力電圧範囲	V_{AD}	—	ADin1~ADin4	0	~	MV_{DD}	V
分解能	V_{RES}	—	—	—	6	—	bit
変換総合誤差	—	—	MV_{DD} = 1.8~3.6 V, Ta = –30~75°C (注 7)	—	—	±2.0	LSB
			MV_{DD} = 2.0~3.6 V, Ta = –40~85°C (注 7)	—	—	±1.0	
アナログ入力リーク電流	I_{LI}	—	V_{IH} = 3.3 V, V_{IL} = 0 V (ADin1~ADin4)	—	—	±1.0	μA

注 7: この項目は、CV_{DD} = DV_{DD} = AV_{DD} = 3.0~3.6 V にて保証。

PDO, TMAX, RFGC, TEBC, FMO, DMO, TRO, FOO, SEL 出力

項目		記号	測定回路	測定条件	最小	標準	最大	単位
出力電流	“H”レベル	I_{OH6}	—	V_{OH} = 2.9 V (SEL, TMAX)	−2.0	—	—	mA
	“L”レベル	I_{OL4}		V_{OL} = 0.4 V (SEL, TMAX)	2.0	—	—	
出力抵抗		R_{out3}	—	(RFGC, TEBC, FMO, DMO, TRO, FOO)	—	3.0	—	kΩ
		R_{out4}		(PDO)	—	5.0	—	
V_{REF} 出力オン抵抗		R_{on}	—	(RFGC, TEBC, FMO, DMO, PDO)	—	—	500	Ω

伝達遅延時間 (BCK, LRCK, AOUT, DOUT, IPF, SBOK, CLCK, DATA, SFSY, SBSY)

項目		記号	測定回路	測定条件	最小	標準	最大	単位
伝達遅延時間	“H”レベル	t_{pLH}	—	—	—	10	—	ns
	“L”レベル	t_{pHL}		—	—	10	—	

CD プロセッサ　AD 変換部 (FEI, TEI, RFRP, SBAD)

項目	記号	測定回路	測定条件	最小	標準	最大	単位
分解能	—	—	(FEI, TEI, RFRP, SBAD)	—	8	—	bit
サンプリング周波数	—	—	(FEI, TEI, RFRP)	—	176.4	—	kHz
			(SBAD)	—	88.2	—	
変換入力レンジ	—	—	AV_{DD} = 3.3 V (FEI, TEI, RFRP, SBAD)	0.15 × AV_{DD}	—	0.85 × AV_{DD}	V

CD プロセッサ　DA 変換部 (フォーカストラッキング系)

項目	記号	測定回路	測定条件	最小	標準	最大	単位
ビット数	—	—	(FOO, TRO)	—	5	—	bit
サンプリング周波数	—	—	(FOO, TRO)	—	2.8	—	MHz
変換出力レンジ	—	—	AV_{DD} = 3.3 V (FOO, TRO)	AV_{SS}	—	AV_{DD}	V

CD プロセッサ　PLL/VCO 部

項目	記号	測定回路	測定条件	最小	標準	最大	単位
入出力信号レンジ	—	—	(LPFN, LPFO)	AV_{SS}	—	AV_{DD}	V
周波数特性	—	—	(LPFN-LPFO) −3dB ポイント (Gain = 1)	—	8	—	MHz
発振センタ周波数	—	—	LPFO = V_{REF}	—	34	—	MHz
周波数可変レンジ	—	—	[VCOGSL] bit = “L”	−30	—	+30	%
			[VCOGSL] bit = “H”	−40	—	+40	

CD プロセッサ　コンパレータ (TEZI, RFZI)

項目	記号	測定回路	測定条件	最小	標準	最大	単位
入力レンジ	—	—	(TEZI, RFZI)	AV_{SS}	—	AV_{DD}	V
ヒステリシス電圧	—	—	(TEZI, RFZI) V_{REF} 基準	−50	—	+50	mV
入力抵抗	Z_{in2}	—	(TEZI, RFZI)	—	10	—	kΩ

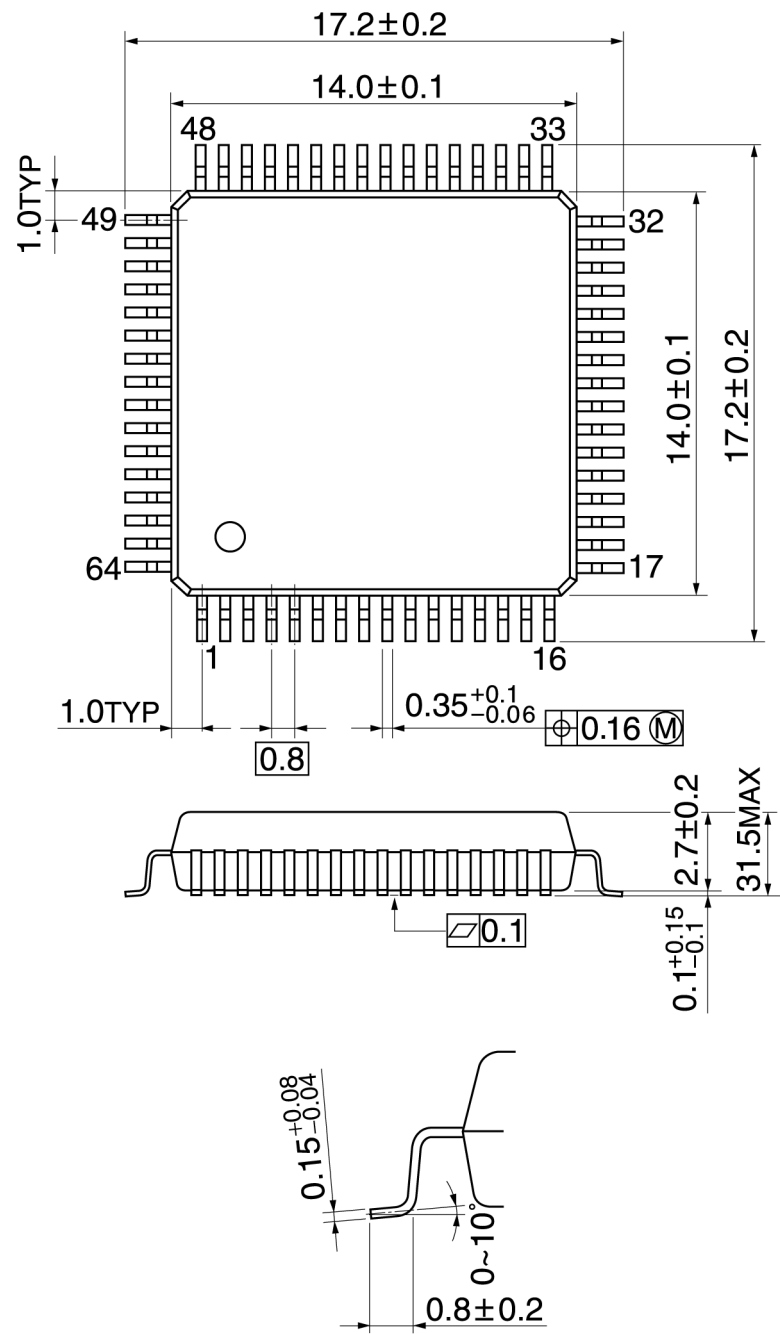
CD プロセッサ　データスライス回路 (RFI/SLCO)

項目	記号	測定回路	測定条件	最小	標準	最大	単位
入力振幅	—	—	(RFI) V_{REF} 基準	0.6	1.2	2.0	V_{P-P}
入力抵抗	Z_{in1}	—	(RFI) CD コマンドにより抵抗設定	—	20	—	kΩ
				—	10	—	
DAC 分解能	—	—	(SLCO) R-2R DAC	—	6	—	bit
DAC 出力変換レンジ	—	—	(SLCO) R-2R DAC	0.75 × V_{REF}	—	1.25 × V_{REF}	V
DAC 出力インピーダンス	—	—	(SLCO) R-2R DAC	—	2.5	—	kΩ

1 ビット DA コンバータ

項　目	記　号	測定回路	測　定　条　件	最小	標準	最大	単位
雑音歪率	THD + N	—	1 kHz 正弦波、フルスケール入力	—	–85	–77	dB
S/N比	S/N (1)	—	内部ゼロ検出: OFF	85	91	—	dB
	S/N (2)		内部ゼロ検出: ON	95	100	—	
ダイナミックレンジ	DR	—	1 kHz 正弦波、–60dB 入力換算	83	90	—	dB
クロストーク	CT	—	1 kHz 正弦波、フルスケール入力	—	–90	–83	dB
アナログ出力レベル	DACout	—	1 kHz 正弦波、フルスケール入力	790	825	860	mVrms

外形図

P-QFP64-1414-0.80C　　　　Unit: mm

質量: 1.20 g (標準)

当社半導体製品取り扱い上のお願い

030519TBA

- 当社は品質、信頼性の向上に努めておりますが、一般に半導体製品は誤作動したり故障することがあります。当社半導体製品をご使用いただく場合は、半導体製品の誤作動や故障により、生命･身体･財産が侵害されることのないように、購入者側の責任において、機器の安全設計を行うことをお願いします。
なお、設計に際しては、最新の製品仕様をご確認の上、製品保証範囲内でご使用いただくと共に、考慮されるべき注意事項や条件について「東芝半導体製品の取り扱い上のご注意とお願い」、「半導体信頼性ハンドブック」などでご確認ください。
- 本資料に掲載されている製品は、一般的電子機器 (コンピュータ、パーソナル機器、事務機器、計測機器、産業用ロボット、家電機器など) に使用されることを意図しています。特別に高い品質･信頼性が要求され、その故障や誤作動が直接人命を脅かしたり人体に危害を及ぼす恐れのある機器 (原子力制御機器、航空宇宙機器、輸送機器、交通信号機器、燃焼制御、医療機器、各種安全装置など) にこれらの製品を使用すること (以下 “特定用途” という) は意図もされていませんし、また保証もされていません。本資料に掲載されている製品を当該特定用途に使用することは、お客様の責任でなされることとなります。
- 本資料に掲載されている製品は、外国為替および外国貿易法により、輸出または海外への提供が規制されているものです。
- 本資料に掲載されている技術情報は、製品の代表的動作･応用を説明するためのもので、その使用に際して当社および第三者の知的財産権その他の権利に対する保証または実施権の許諾を行うものではありません。
- 本資料に掲載されている製品を、国内外の法令、規則および命令により製造、販売を禁止されている応用製品に使用することはできません。
- 本資料の掲載内容は、技術の進歩などにより予告なしに変更されることがあります。